

# 伴奏講座

3回シリーズ

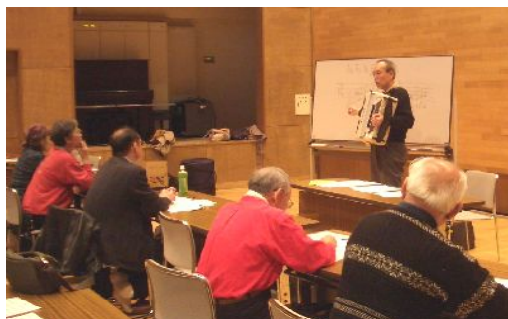
## 第6弾、好評のうちに終わる

♪1回目(2008年12月7日)と2回目(2009年1月18日)は半日の短時間コースでJR中央線国分寺駅より徒歩7分程の労政会館において開催されました。3回目(2009年2月14~15日)は一泊二日の宿泊コースで八王子市「夕やけ小やけふれあいの里」で実施されました。参加者は、1回目8名、2回目は15名、3回目は21名でした。参加者より寄せられた感想を紹介いたします。

### 第6回伴奏講座合宿・・・(伊藤知義)

伴奏講座の合宿に参加してきました。私はアコーディオン(以下、アコ)を習い始めてまだ3年目の初心者で、伴奏や和音についても全くの素人ですが、講師の池田健氏の教え方はとても親切丁寧で、新しい世界へ1歩足を踏み入れることができた気がしています。

講義の様子↓



1泊2日の合宿は3回シリーズの講座の仕上げです。私は2回目からの参加ですが、内容がかなり難しい(とても面白いのですが)ので、かなりの時間をかけて2回目の復習から始めていただいたのは大変助かりました。＃や♭がついた楽譜を見て、まず何調かを調べます。アコを弾く私たちにはこれはとても簡単。左ボタンの並びを思い出し、＃や♭の数だけCから上下に移動すればすぐに分かります。例えば＃3つならCの3つ上のAになります。調を確認して、移動(あるいはう)から三和音を6つ並べて、主和音、下屬和音、屬和音などを決め、

後はメロディーの音を含む和音(コード)を付けて行きます。コードを確定したら、最後に右鍵盤(右ボタン)で伴奏の弾き方(リズム)を決めます。和音をそのまま弾いたり、アルペジオにしたり、オブリガート、対位旋律、合いの手なんていうものもあります。この説明を読んでもさっぱり分からない方もおられるかと思いますが、伴奏講座に出るとちゃんと分かりますよ。未経験の方には是非次回講座に参加されることをお勧めします。

今回の参加者は20人ほどで、例年よりも少ないようですが、私としてはその分講師にいろいろ気軽に質問もできて、却ってよかったと感じています。池田氏はとても気さくな方で、演奏もさることながら、教育についてもとても才能があることがわかります(偉そうに済みません)。受講者から高度な質問が出て、すぐに適確な回答をしておられ、音楽の世界を非常に深く理解していることが伺えます。

懇親会も1次会、2次会とあり、初めてお



↓夕食後の懇親会の様子



会いする方々とも楽しいアコ談義をすることができます。合宿の最後には、各人が課題曲を採譜し、コードを付け、伴奏メロディーも作り、それぞれが作曲者あるいは編曲者になった気持ちです。何人かが自作の伴奏を発表したのですが、すてきな演奏をされる方が多く、自分も早くその一員になりたいと思いました(私は時間切れで完成させられませんでした)。

音楽の勉強をするよい機会を与えていただきました。心より感謝申し上げます。来年度以降も是非続けて行かれることを願っております。

歌伴ことはじめ・・・(新井進一)

今回で6回目だが、初めて参加した。内容は音階と三和音(コード)の付け方、伴奏の付け方など。コードの付け方はちょっと、...ではなくかなり難しかった。(理解度30%以下)。でも気にしない(多くの歌の楽譜にコードが載っているから)。歌が好きなので、独奏よりも伴奏に関心をもっていたが、何をどう練習したらいいのか分からなくて、先に進めなかった。講座を受けて、コードの付け方などまだ十分ではないが、伴奏を始めるうえで最低限必要な知識がえられたと思う。これで長年の課題であった伴奏の練習によりやく取り組むことができる。何人か集まる機会が合ったとき、歌でも歌おうということになったら伴奏ができる

ように練習をつんでみたい。

伴奏講座に参加して・・・(七田和弘)

最後の宿泊コースに、昨年に引き続き参加しました。講師の池田健氏の実践に裏打ちされた講義や演奏を基に、課題曲の中から好きな曲を選んで、旋律と伴奏譜を書いて演奏してみるという作業にかなりの時間を費やしてしまった。各調の副和音も駆使しながら、より新鮮でなめらかなコード進行に心がけました。歌い手を鼓舞するリズムは、「じゃばら」の操作で行うということもわかりました。また伴奏は、あくまでも歌い手が正確に歌う為の補助的なものなので、



伴奏としての独自の基礎、基本があり、それをしっかり身につけていかなければならないこともわかりました。 交流会で弾く七田さん↑

今回は20名程度の参加で、アコに対する思いや練習方法など共感出来ることもたくさんあり、いい刺激になりました。歌い手の気持ちになって心地よく伴奏して下さる先輩方に一歩でも近づけければと思います。

その他  
スナップ

→



